

ブロイラーの産肉能力経済検定

河野由美子・中島治美・草場寅雄(福岡県農業総合試験場)

KOHNO, Y., H. NAKASHIMA and T. KUSABA: Performance Test of Meat Production of Broiler

1973年から1981年までの産肉能力の検定結果から、この間の産肉性能の変化についてまとめた。

1. 検定方法

1) 検定ひな: 検定ひなの銘柄は、1973年は8銘柄8孵化場、'74年は8銘柄8孵化場、'76年は7銘柄7孵化場、'79年は6銘柄6孵化場、'80年は6銘柄7孵化場、'81年は5銘柄8孵化場をとりあげ、餌付けから63日齢までの育成成績についてとりまとめた。供試羽数は1銘柄につき1973年は100羽、'74年は110羽、'76年は100羽、'79年、'80年は150羽、'81年は140羽で実施した。

2) 検定時期: 10月~12月

3) 飼養方法: 開放平飼い鶏舎を用い、各年とも雄雌別飼いとしました。

4) 供試飼料: 全年、同一メーカーの配合飼料を使用した。粗蛋白質は全年同一で前期22.0%以上、後期18.0%以上であるが、代謝エネルギーは'73年、'74年が前期3,090 Kcal/kg、後期3,120 Kcal/kgであったのに対し、'76年、'79年、'80年、'81年は前期、後期とも3,030 kcal/kgと低くなっている。

2. 試験結果

第1表 育成率(%) 0~9週

	'73年	'74年	'76年	'79年	'80年	'81年
雄	94.0	95.8	88.3	96.2	93.7	95.4
雌	96.6	99.8	96.4	98.7	97.8	98.7
平均	95.3	97.8	92.4	97.5	95.8	97.1

第2表 死亡原因別羽数

	'73年	'74年	'75年	'76年	'80年	'81年	計
脚弱症候群	0	5	30	1	11	10	57 ($\frac{\$41}{\text{♀}16}$)
呼吸器病	0	3	3	11	10	8	35 ($\frac{\$28}{\text{♀}7}$)
消化器病	4	0	4	1	1	1	11 ($\frac{\$10}{\text{♀}1}$)
卵黄不消化	6	0	1	0	7	0	14 ($\frac{\$6}{\text{♀}8}$)
肝包膜炎	0	0	0	2	5	4	11 ($\frac{\$9}{\text{♀}1}$)
窒息死	0	0	0	5	10	5	20 ($\frac{\$15}{\text{♀}5}$)
その他	10	5	14	5	3	5	42 ($\frac{\$35}{\text{♀}8}$)
不明	16	5	8	1	4	0	34 ($\frac{\$20}{\text{♀}14}$)
計	36 ($\frac{\$23}{\text{♀}13}$)	18 ($\frac{\$17}{\text{♀}1}$)	60 ($\frac{\$46}{\text{♀}14}$)	26 ($\frac{\$18}{\text{♀}8}$)	51 ($\frac{\$34}{\text{♀}17}$)	33 ($\frac{\$26}{\text{♀}7}$)	224 ($\frac{\$161}{\text{♀}60}$)

注) 1) 脚弱症候群……関節炎(2)、脱け丸(4)、骨脆弱症(10)、趾癩(5)、骨折(6)

2) 呼吸器病……気管炎(30)、肺炎(4)、鼻炎(1)

3) 消化器病……食滯(7)、腸炎(2)、胃潰瘍(1)、胃炎(1)

第3表 9週齢生体重(g)

	'73年	'74年	'76年	'79年	'80年	'81年
雄	2,549	2,602	2,857	3,218	3,243	3,225
雌	2,062	2,098	2,329	2,497	2,559	2,560
平均	2,306	2,350	2,593	2,858	2,901	2,893

第4表 飼料消費量(g/羽) 0~9週

	'73年	'74年	'76年	'79年	'80年	'81年
雄	6,127	6,070	6,512	7,132	7,134	7,007
雌	5,544	5,062	5,938	5,895	6,064	5,989
平均	5,836	5,566	6,225	6,514	6,599	6,498

第5表 飼料要求率0~9週

	'73年	'74年	'76年	'79年	'80年	'81年
雄	2.44	2.37	2.31	2.25	2.23	2.20
雌	2.74	2.46	2.60	2.40	2.41	2.39
平均	2.59	2.42	2.46	2.33	2.32	2.30

第6表 産肉効率0~9週

	'73年	'74年	'76年	'79年	'80年	'81年
雄	230	242	272	318	321	323
雌	166	188	198	229	238	237
平均	198	215	235	274	280	280

注) ・全検定銘柄の平均したもの
・飼料要求率=飼料消費量÷増体重
・産肉効率=生体重(ポンド)÷飼料要求率×100

1) 育成率: '73年以降、年度による差はあるものの、経年的に一定の傾向は見られず、強健性の面からは性能的にそれほど変わっていないと言えそうである。また、性別にみると、各年とも雄が雌に比べて劣っている。死亡原因別羽数は年度による違いが大きいが経年的には一定の傾向は見られなかった。

2) 体重: '73年以降、'79年までは年々著しい増加を示しているが、'79年以降は体重の伸びが止まっている。

3) 飼料要求率: '74年の雌を除くと'73年以降、年々著実に良くなっている。性別にみると、全年とも雄は雌に比べて優れている。

4) 産肉効率

'73年以降、'80年まで著しく伸びているが、'81年は'80年に比べて、若干ながら悪くなっている。これは飼料要求率が'79年以降、良くなっているのに対して増体重が前年に比べて約20g減っているためである。